

収益構造崩壊 地銀崖っぷち

異次元の10年

—現場からの報告—

⑤

むなど本業は依然、振るわな
い状況だ。

「高知の食材をふんだんに使った、高知ならではのおすすめ商品です」

高知市の観光名所「はりまや橋」からほど近い百貨店・高知大丸で4月4日までの1週間、「高知の魅力発信フェア」が開かれた。かつお節やゆずなど、高知特産の食材を使った加工品61種類が並び、多くの買い物客が足を止めた。

主催したのは2022年12月に発足した「地域商社こうち」。親会社は高知の第二地銀、高知銀行だ。フェアで接客している「地域商社」の社員はみな、高知銀行からの出向者だという。

越県営業 日常に

なぜ地銀が特産品を販売するのか。きっかけの一つは高知銀行の経営不振だった。09年3月期決算で2期連続の最終(当期)赤字に陥り、同年12月には国から150億円の公的資金投入を受けた。公的資金の返済期限は24年12月に迫っているが、22年9月中間決算(連結)でも最終利益が前年同期比38・7%減に落ち込

なで営業活動も今では当たり前

た

「越県営業」で、高知銀行の営業活動も今では当たり前

なで営業活動も今では当たり前

金融庁 名指しで再編誘導

前になっっている。

「キャンペーンをやっているのでも融資させてもらえませんか?」目的は何でもいいので、とりあえず借りてください」

会社経営者の関根壮至さん(50)は22年2月まで、水道管やガス管などを扱う新潟県内の会社で会長を務めていた。年商は60億円。黒字経営が続いており、地銀にとつて貸し

倒れリスクを心配しなくてもいい「得意先」だ。金融機関の営業も激しかったという。

これまでは新潟県内の金融機関が中心だったが、数年前から八十二銀行(長野市)や北陸銀行(富山市)など県外の有力地銀の攻勢が目に見えて強まった。「かつては「紳士協定」によって地銀の越県営業はなかったが、地元だけでは安定した収益が見込めな

日銀も歩調合わせ

銀行経営の先行きが見込めない中、国内に99行ある地銀はいま、強い危機感にさらされている。経営努力だけでは現状を打開することは難しく、再編の動きも急ピッチで進む。

ふくおかフィナンシャルグループ(FG)は22年11月、福岡の第二地銀、福岡中央銀行と経営統合で基本合意。3月14日には福岡中銀を10月1日

いということでしょう。地銀経営がいかに厳しいかが分かる(関根さん)

付で完全子会社化すると発表

した。中核の福岡銀行を含め地銀4行を傘下に持つことになり、国内最大の地銀グループの体制をさらに強化する。

銀行経営の先行きが見込めない中、国内に99行ある地銀はいま、強い危機感にさらされている。経営努力だけでは現状を打開することは難しく、再編の動きも急ピッチで進む。

焦り 不正融資に発展

だが、政府・日銀の手法には死角がある。地銀各々が業績不振を脱するため新たな収益源を求めた結果、想定していなかったリスクが高まっていることだ。

新たな収益源を求める焦りが行政処分が発展したケースもある。18年に発覚したスルガ銀行(静岡県沼津市)によるシェアハウス向け不正融資問題はその典型だろう。通帳を改ざんするなどして投資用不動産向け融資を強引に拡大した手法は多くの被害者を生み、金融庁は同融資の新規受け付けの6カ月間の停止を命じる厳しい処分を下した。

異次元緩和はこの先、どう動くのか。日銀では9日、経済学者の植田和男氏が新総裁に就任する。これを機に金融政策が大きく動く可能性もあるが、植田・日銀が超低金利政策を引き継げば、地銀など地域金融機関は重大な局面を迎えかねない。

だが、政府・日銀の手法には死角がある。地銀各々が業績不振を脱するため新たな収益源を求めた結果、想定していなかったリスクが高まっていることだ。

新たな収益源を求める焦りが行政処分が発展したケースもある。18年に発覚したスルガ銀行(静岡県沼津市)によるシェアハウス向け不正融資問題はその典型だろう。通帳を改ざんするなどして投資用不動産向け融資を強引に拡大した手法は多くの被害者を生み、金融庁は同融資の新規受け付けの6カ月間の停止を命じる厳しい処分を下した。

異次元緩和はこの先、どう動くのか。日銀では9日、経済学者の植田和男氏が新総裁に就任する。これを機に金融政策が大きく動く可能性もあるが、植田・日銀が超低金利政策を引き継げば、地銀など地域金融機関は重大な局面を迎えかねない。

【袴田貴行、小林理、佐久間一輝】



地域の取引先が開発した商品を販売する高知銀行の子会社「地域商社こうち」

おわり